

社会福祉法人 楽山会
 第二椎の実子供の家
 平成28年度 事業報告

2年目を迎えた、国の「子育て支援新制度」を踏まえて、保育と教育の充実を図るため、園内研修や外部研修、会議を定期的に行い専門性を高めることで、保育環境整備や保育の質の向上に努めた。また、「園児の生きる力の基礎を培う」を基本とし、健康・安全で情緒の安定した生活ができるような保育を進めてきた。保護者には保育の情報発信を心掛け、実際に園の様子を見ていただく保育参観を活用し、相談や助言を行うなど、家庭への支援に努めた。

職種別・階層別の研修計画書を活用し、個々に合わせた無理のない職員教育を行った。

重点目標

- | | |
|-----|----------------------------|
| I | 生活や遊び、運動を通して「生きる力」を育む保育の推進 |
| II | 人材育成のための階層別研修計画の実施 |
| III | 衛生管理、安全管理の周知及び徹底 |
| IV | 地域子育て支援と次世代育成支援の充実 |
| V | 将来を見据えた保育園のあり方の検討 |

I 生活や遊び、運動を通して「生きる力」を育む保育の推進

乳幼児期の子どもが、生活や遊びを通して、人間としての「生きる力」の基礎を獲得していけるように、環境を整え、子どもの発達及び生活の連続性に配慮した保育を行った。特に、「心身ともに健康な体づくり」「自ら行おうとする力」「人と関わる力」を重視し、発達段階に応じて意図的な活動を取り入れてきた。散歩や、公園の遊具・場所を活用して体を存分に動かして遊ぶなど、園外ならではの経験を積むことができた。地域の方や近隣の保育園児などと触れ合いを持つことで、自然と挨拶を交わす姿も見られた。また、季節を感じたり、地域を知ることのできる良い機会となった。

園内においても、登り棒・縄跳び・ホッピングなどに意欲的に取り組み、ドッチボールや鬼ごっこなどを子ども同士で誘い合って遊ぶ姿が増えた。

平成28年度初の試みとして4歳児を対象に、囲碁体験を取り入れた。囲碁の講師による全4回の活動であったが、子ども達は興味関心を持ち、楽しく活動に参加した。

II 人材育成のための階層別研修計画の実施

平成28年3月に策定した「椎の実子供の家・第二椎の実子供の家 研修計画」に基づき、職種、職責、経験等による階層別研修を推進することができた。OJTの実施では、個人カルテの活用を階層別に内容を変え、中堅職員が新人職員を、リーダーが中堅職員を指導することにより、職員一人ひとりが明確な目標に向かって職務を全うする姿が見られ、人材育成の強化につながった。

また、全体の保育力の向上をねらい、専門講師による内部研修会を定期的を実施する他、2年目までの職員を対象に保育課程やモンテッソーリ教育について園内研修を実施した。両園での公開保育も定期的を実施し、保育実践を通して、保育の振り返りや保育の質の向上につなげることができた。

Ⅲ 衛生管理、安全管理の周知及び徹底

施設内の環境を常に衛生的、適切な状態に保持するとともに、衛生管理の改善を行うなど、保健的環境の維持及び向上に努めた。毎朝朝礼当番が行う安全チェック体制が定着し、職員一人ひとりの固定遊具や環境等に対する安全危機管理意識が高まり、職員自らの発信が増えてきた。

防犯対策としては、平成28年度に「刺す股」を購入した。実際に用いて防犯訓練を実施し、使い方を練習したことで、より防犯に対しての意識が高まった。今後、複数の職員が協力してより万全な対応をするために、「刺す股」を新たに2本購入することとした。

平成28年度から運用を開始した「メール等一斉配信システム」(フェアキャスト)は、9割近くの保護者が登録を済ませ、年内2回の配信を行った。1回目はテスト配信、2回目は音楽リズム発表会の延期についての連絡であった。

「大災害を含めた防災マニュアル 事業継続計画」(BCP)は、10月には職員の異動に伴う組織変更があったため見直し、改定を行ったのち、全職員へ配布し周知を図った。

ヒヤリハット報告書においては、より良く活用できるように、リーダーを中心に書式の見直しを行い簡易的なものに変更した。が、報告書の提出が少なく、運用面において課題を残した。

アレルギーについては、食育保健会議を中心に勉強会を行った。誰が何のアレルギーを持っているのか等、口頭や筆記での確認を行い、アレルギー児への対応の徹底を図った。

Ⅳ 地域子育て支援と次世代育成支援の充実

地域の子育て支援については、「にしじろ便り」をホームページに掲載し、地域の子育て家庭へ子育ての情報を発信した。ホームページは毎月更新し、活性化を図った。また、保育所体験として「出産を迎える親の体験学習」を7回開催した。内容は、平成27年度好評だった「離乳食講習会」「わらべ歌」「0歳児クラス体験&見学会」と同様とした。地域社会における子育て家庭の交流の場として、また子育てのサポーターとして保育園の役割を果たすことができた。

年末保育は、31日のみ両園合同で保育を行った。保育場所は椎の実子供の家とし、一時預かり1名のみでの利用であった。

次世代育成支援については、「ボランティア」や「保育実習生」の受け入れを行った。ボランティアは、小学6年生から大学生まで幅広く、多数の学生の参加があった。保育実習前の事前体験として訪れた学生もいた。また、大学のサークル活動メンバー8名によるペアサポートや素話等は、子ども達にも大変好評だった。

Ⅴ 将来を見据えた保育園のあり方の検討

平成27年度始動した新園舎建設プロジェクトチームによる中間報告を踏まえ、平成28年度は、管理職が様々な形態の保育園の視察及び調査を行い、統括リーダーによる海外視察の結果と併せて、将来を見据えた保育園のあり方について検討を重ねた。平成29年1月15日に合同研修会を開催し、先進保育園視察結果を報告し、2園全職員間で共有することで、園舎建替えに向けてさらなる意識の一体化を図った。

1 園児について

園児とクラス編成

(1) 定員 120名

(2) 年齢別 ① 0歳児 9名 ② 1歳児 17名 ③ 2歳児 22名
 ④ 3歳児 24名 ⑤ 4歳児 24名 ⑥ 5歳児 24名

(3) クラス編成と職員構成

クラス名	対象年齢	定員	在籍数	保育士	職員数
たんぽぽ	0歳児	9名	9名	3名	園長 1名 副園長 1名 保育士 19名 看護師 1名 栄養士 1名 調理員 4名 非常勤職員 15名 嘱託医 1名
すみれ	1歳児	17名	17名	3名	
つくし	2歳児	22名	22名	4名	
もも	3歳児	8名	8名	2名	
	4歳児	8名	8名		
	5歳児	8名	8名		
さくら	3歳児	8名	8名	2名	
	4歳児	8名	8名		
	5歳児	8名	8名		
あんず	3歳児	8名	8名	2名	
	4歳児	8名	8名		
	5歳児	8名	8名		
合計		120名	120名	16名	
一時預かり いちご	満1歳～5歳	6名		2名	43名

5月と11月～3月は4歳児1名、5月～3月は5歳児1名、11月は0歳児1名、4歳児1名の欠員があった。